2010年度　生殖機能・妊娠分娩系Ⅰ

Ⅰ（海野）過去問通り

臍帯と胎盤の関係がわかるように、下記の事柄がわかるように、模式図を書け。

（臍帯、羊膜、臍静脈、臍動脈、絨毛、絨毛血管、絨毛間腔、子宮内膜動脈、子宮内膜静脈、脱落膜）

Ⅱ（川内）過去問通り

下記模式図に記載されているa〜g（どこの経過であるか）から選び、括弧内に記入しなさい。

エストロゲンの合成過程でLHによって促進されるのは（　1　）であり、抑制されるのは（　2　）である。FSHによって促進されるのは（　3　）であり、莢膜細胞内で行われる過程は（　4　）である。顆粒細胞内で行われる過程は（　5　）である。

　　　コレステロール

　　　　　　↓a

　　　プレグネノロン　　→　プロゲステロン

　　　　　　↓b　　　　　　　　　　↓c

17α-(OH)-プレグネノロン　→　17α-(OH)-プロゲステロン

　　　　　　↓d　　　　　　　　　　↓e

デヒドロエピアンドロステロン→アンドロステンジオン→テストステロン

　　　　　　　　　　　　↓f　　　　　　　　　　　↓g

　　　　　　　　　　　エストロン　　→　　エストラジオール

受精が行われるのは（　1　）であり、卵管の長さは（　2　）cmである。この中を受精卵は約（　3　）日かけて進み、子宮腔に達した時には（　4　）となっている。受精から約（　5　）日後に着床を始め、そのときの胚は（　6　）になっている。着床が完了するのは約（　7　）日後である。

二次性徴のうち最も早く見られるのは（　8　）であり、その際下垂体から（　9　）が放出される。少量では（　10　）が増大し、多量では（　11　）の閉鎖が起こる。

卵細胞が200万個から劇的に減少することを（　12　）という。

Ⅲ（角田）授業で宣言した所と違う

下腹部腫瘤を起こす婦人科的疾患を述べなさい

Ⅳ（酒井）

・卵母細胞は〔1：①胎生期　②思春期　③排卵3ヶ月前　④排卵2週間前　〕に分裂開始する

・卵子は排卵時に〔2：①第一減分前期　②第一減分中期　③第二減分前期　④第二減分中期　〕で止まっている

・排卵後、顆粒膜細胞は（　3　）に、卵胞膜細胞は（　4　）になる

・発生において、子宮は（　5　）管からでき、精管は（　6　）管からできる

・精巣下降は〔7：①胎生4ヶ月　②胎生8ヶ月　③思春期　④出生後3ヶ月　〕に起こる

・子宮動脈は（　8　）動脈から分岐し、子宮内膜では特徴的な血管である（　9　）動脈となる。月経期、機能層の脱落は（　10　）というホルモンの減少により起こる

Ⅴ（西）テキストそのまま

視床下部、下垂体ホルモンと精巣の細胞の関係性を図示して説明せよ

Ⅵ（三枝）

・外陰の病変では、特に（　1　）の感染による表皮の肥厚状増生の（　2　）がある

・子宮頚部でも（　1　）の感染により、異形成が起きる

　扁平上皮の全層が異形成になれば（　3　）となり、間質まで拡がると（　4　）となる

・月経周期の分泌期の初めに見られる特徴的な所見は（　5　）である

・子宮筋層内に子宮内膜組織ができる疾患は（　6　）という

・子宮平滑筋由来の良性腫瘍に（　7　）があり、肉眼所見では（　8　）模様が特徴である。組織所見ではしばしば硝子様病変などの（　9　）を伴う

・子宮内膜増殖症は（　10　）の過剰分泌で発生し、（　11　）型の子宮内膜癌になりやすい

・ホルモン非依存性の子宮内膜癌は明細胞癌と（　12　）がある

・粘液性の卵巣腫瘍は腺腫から（　13　）を経て、（　14　）へ進展する

・胞状奇胎は絨毛の（　15　）が特徴的である